

壊れゆく“若者たち”

File.58 デジタル症候群 ~時代の流れで消えゆく風情

文 石井 通明 text by Michiaki Ishii

平成最後の正月を迎え、新年に色々な思いをこめる折、新年のお賽銭をQRコードで済ませるといふ、何とも理解し難い状況を目にしました。栃木県日光市の社寺では、中国人観光客の数の多さを受けてか、至るところにQRコード決済ができるようになっていいます。QRコードは、中国人の方が利用するWeChatというLINEのようなコミュニケーションアプリに対応しており、そのターゲットはインバウンド旅行者の中国や台湾の人向けに提供されているようです。

世界遺産にも登録された厳かな場所でも、QRコードによるお賽銭形式が利用されていることに大きな違和感を覚えます。これから日本国内の観光地では、このような風情を失った状況が多く見られていくことが予想されます。

今現在、PayPay決済やLINE決済が街中に溢れてきていて、電子マネーの在り方が全く理解出来ないものになっています。便利とは到底言えないような状態です。この状況が日本の文化が誇る領域にまで進出するとなると、これは「神聖なる場所」を汚しているような印象すら覚えてしまいます。



Profile
東京都大田区生まれ。
英国ウエールズ大学MBA(経営管理修士)。
日本交渉学会会員。ハーバード流交渉学・消費者行動心理学・コンフリクトマネジメントを研究。日本コールセンター協会情報調査委員。
㈱グッドクロス取締役COO
長年コールセンター運営に携わり、人とのコミュニケーションについての研究を進めている。思いやりのコールセンターを展開。
becall1031642012088
[http://www.becall.jp]

お賽銭については、商売とは価値観の違うものであるはずで、日本には、こういった風情を大事にし、礼儀作法を重んじ、お賽銭は神聖なもの・ご利益のあるものとしての価値観が存在します。この全てを「利便性」という考え方のもとで電子化することは多くの国民の意に反することであると思います。

この価値観と、世間の進化、そして他国からのインフラの波が今後どのようにに混ざりあっているかが気になることです。

日本人の日本人らしさを大事にするなら、決してこのような形が広がることは喜ばしいことではありませんが、時間とともにこのような社会になっていくことが考えられます。そうなる、この電子化に抱く嫌悪感は、時代の進

化からしたら古い感覚となってしまうのかもしれない。世の中の進化が進み、便利な時代が訪れても、日本人が日本人として大切にしている「価値観」は失いたくないものです。

